

## 会員の活動報告

(2021年11月～2022年10月)

### 伊川 徹

- 箴言をご進言！ — その1 (『ひろば *Place de CAF<sup>+</sup> N°6*』, 日仏文化講座 CAF, pp.6～7、2022年1月)
- 箴言をご進言！ — その2 (『ひろば *Place de CAF<sup>+</sup> N°7*』, 日仏文化講座 CAF, pp.5～6、2022年5月)
- すみれの花咲く頃 (『別冊シャンソン・フランセーズ研究 第2号』, シャンソン研究会電子版, p.29、2022年7月)
- ふたりのジャン＝バチスト(1) — モリエールの誕生 (『花だより、人だより－ふみの里から 第41号』(中村啓佑氏発行)、pp.3～4、2022年8月)
- ふたりのジャン＝バチスト(2) — コメディ＝バレエの誕生 (『花だより、人だより－ふみの里から 第42号』(中村啓佑氏発行)、pp.2～3、2022年8月)
- 箴言をご進言！ — その3 (『ひろば *Place de CAF<sup>+</sup> N°8*』, 日仏文化講座 CAF, pp.5～6、2022年9月)
- ふたりのジャン＝バチスト(3) — ふたりの終焉 (『花だより、人だより－ふみの里から 第43号』(中村啓佑氏発行)、pp.3～4、2022年9月)

### 伊藤 誠宏

- 17世紀フランス文法家証言集Ⅶ — 形容詞 — (著書、関西大学出版部、2021年11月21日)
- 17世紀フランス文法家証言集 — 名詞の数 — (『仏語仏文学』第48号、2022年3月15日)

### 大久保 朝憲

- 論証的意味論にもとづいたのぞましさ述語の記述をめぐって (『仏語仏文学』第48号、2022年3月)

### 柏木 治

- サロンと文人・芸術家たち — 庇護活動の変容と著名性の問題 (論文、『關西大學文學論集』第71巻第3号、関西大学文学会、2021年12月)

- ・「謎残すことで立体感」(新聞記事、第38回織田作之助青春賞・奨励賞選評、『毎日新聞』、2022年1月19日)
- ・第38回織田作之助青春賞選評(雑誌記事、『三田文学』第148号・冬季号、三田文学会、2022年2月)
- ・第38回織田作之助青春賞・奨励賞選評(雑誌記事、『文学回廊』第7号、大阪文学振興会・織田作之助賞実行委員会、2022年3月)
- ・旧「大学院ホール」と院生研究室(巻頭エッセー『仏語仏文学』第48号、2022年3月)
- ・読書教養講座「絶望を書く、光を描く」(公開講座、ゲスト：町田その子氏、公開対談、21世紀活字文化プロジェクト、読売新聞社、2021年11月20日)
- ・スタンダールとブルジョワ芸術家(学会発表、日本スタンダール研究会(オンライン開催)、2021年12月26日)
- ・「新人賞、実際どんな小説がいの？」(Zoom座談会、吉村萬壺氏、堂垣園江氏との公開座談会、三田文学会主催、2022年8月7日)

#### 渋谷 直樹

- ・ヴォルテールの『オイディプス』におけるライオス殺害者の追跡(『仏語仏文学』第48号、2022年3月)

#### 高岸 敦夫

- ・フランス民話の「赤ずきん」と『人狼 JIN-ROH』(『仏語仏文学』第48号、2022年3月)

#### 友谷 知己

- ・フランス古典文学に於ける「敵同士の恋」の主題(『仏語仏文学』第48号、2022年3月)

#### リコ-ヨコヤマ・アドリアナ

L'évolution des sensibilités envers l'animal vue à travers le prisme de l'épisode révolutionnaire. (『仏語仏文学』第48号、2022年3月)

## 後 記

長年にわたり本学会に貢献してこられました奥純教授が、2023年3月をもって退職されることとなりましたので、この『仏語仏文学』第49号を退職記念号とさせていただきます。奥先生は在職中、研究・教育・組織運営など、さまざまな面において多くの功績をのこされました。奥先生のご尽力に深く感謝もうしあげますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をおいのりいたします。

さて、本年度も新型コロナウイルスの感染被害が続くいっぽうで、大学の授業形態などはほぼ平常化したものの、本学会の研究発表会開催はかなわず、昨年同様、2022年12月17日（土）に総会のみをオンラインで開催しました。にもかかわらず、本号にも多くの研究論文が寄稿され、本学会会員のみなさんご活躍おりの知ることができましたことは大変よろこばしいことと存じております。また本号には、2022年3月文学部卒業の白水美優氏の卒業論文を掲載しました。この論文は昨年度の文学部優秀卒業論文にえられたものです。社会人として日々多忙にされる中、白水氏には校正作業などにご協力いただきましたことに、この場をかりてお礼申し上げます。

こうしたなか、新型コロナウイルスの感染被害状況が収束にむかいつつあるという知らせも、徐々に耳にするようになりました。事態は慎重にみまもる必要があることはもちろんですが、今年こそ、12月の研究発表会を再開し、会員のみなさまと、千里山で再会をよろこびあえることができますよう、編集委員会一同、こころからおいのり申し上げます。

(編集委員会)

## 関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学専修合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
  1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行。
  2. 研究会・講演会の開催。
  3. その他本会の目的にかなう事業。
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
  1. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修専任教員。
  2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻・専修学生、およびその修了者 (旧学科名称時の大学院修了者を含む)。
  3. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修学生、およびその卒業生 (旧学科名称時の学部卒業生を含む)。
  4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められた者。
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
  1. 会長 1名
  2. 委員 若干名
    - a. 企画委員
    - b. 編集委員
    - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2007年4月1日から施行)

## 仏語 仏文学 第49号

2023年3月15日 発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会  
吹田市山手町 関西大学  
フランス学研究室  
印刷所 株式会社 遊文舎  
大阪市淀川区木川東4丁目17番31号  
電話 (06) 6304-9325(代)

(非売品)